

京都市クアラルンプール情報拠点レポート(2018年6月・7月分)

1 統計

○訪日旅行者数(マレーシア)

・2018年6月 36,500人(2017年6月 30,044人)(対前年比+21.5%)

・2018年7月 23,100人(2017年7月 21,572人)(対前年比+7.1%)

※出典「日本政府観光局(JNTO)」

○京都市内39ホテル対象宿泊実人数(マレーシア)

・2018年6月 949人(2017年6月 847人)(対前年比+7.7%)

・2018年7月 383人(2017年7月 618人)(対前年比-40.2%)

※出典 京都市観光協会・京都文化交流コンベンションビューロー「外国人客宿泊状況調査」※対前年比は総営業部屋数の差異を補正反映

2 市場動向

■訪日外客数(2018年6月推計値)

◆訪日外客数(全体) : 270万5千人(前年比15.3%増)

◆マレーシアからの訪日外客数 : 36,500人(前年比21.5%増)

※6月として過去最高

考えられる要因⇒昨年に比べ、今年はラマダン(断食)開始日が早まり、6月中旬のハリラヤ・プアサ(断食明けを祝う祝日)と学校休暇が重複したことで、家族旅行需要が高まったと考えられる。また、マレーシア航空のクアラルンプール-成田線が週2便増便となったことも訪日者数の増加を下支えした。

*出典 : JNTO 統計

■経済情勢、景況感

新政府の公約により、6月1日から消費税に相当する物品・サービス税(GST)が0%に。現在は、売上税及びサービス税(SST)が導入(9月1日～)されるまでのタックスホリデー期間として、消費活動が活発となっている。

個人消費のバロメーターとして注目される新車販売台数を見ると、6月は6万4502台と前年同期比28.3%増、前月5月と比較すると50.1%増と大幅に伸びた。

マレーシア経済研究所が四半期ごとに発表する消費者心理指数(CSI)も、1997年以来21年ぶりの最高値となる132.9を記録。(CSIは基準値となる100を超えると「楽観的」、下回ると「悲観的」と見る。)

直近では過去4年に渡り100を下回る状況が続いたが、一転「楽観的」に転じた。

景気の盛り上がりを受け、日本をはじめとした海外への旅行者も今後ますます増加すると予測される。

■政治関係

河野外務大臣が、マハティール首相を表敬訪問

7月11日 河野外務大臣が、マハティール首相を表敬訪問。

マハティール首相の93歳の誕生日(7月10日)の祝辞を述べると共に、ルック・イースト政策を基礎に、教育分野を始めとした協力関係を拡大、深化させたい旨を述べた。

マハティール首相も、自分も頻繁に訪日するので、自身の政権下で日本との関係をさらに強化していきたい、また、日本からのさらなる投資にも期待している旨を述べた。



■日本関連イベントピックアップ

群馬県：知事トップセールス実施

群馬県の大澤知事が、7月8日～11日の日程で、「観光誘客の促進」、「農産物等県産品の販路拡大」のため、マレーシアでトップセールスを実施。現地スーパーにおける県産果物のPR販売や、現地有力旅行会社を訪問し、群馬県への観光誘客の協力依頼を行った。

9日に実施した「群馬県魅力説明会」には、現地旅行会社や流通業者、メディアなど約60人を招待し、県産食材を使った料理や地酒を提供した。



東北海道：旅行会社向けセミナー実施

ひがし北海道観光事業開発協議会が、7月12日にクアラルンプール市内のホテルにて、現地旅行会社約30人を招いて、セミナーと商談会を実施。

釧路や帯広、網走などの観光担当者やホテルの担当者が、エリアの魅力や自社サービスのアピールを行った。



北海道展@伊勢丹 KLCC 店

北海道の物産を販売する「真夏の北海道展」が、7月13日から25日の日程で、伊勢丹 KLCC 店で開催された。



Japan Expo Malaysia 2018

7月27日から29日にかけて、クアラルンプール中心部のショッピングモール Pavilion で、日本をテーマにした総合イベント「Japan Expo Malaysia 2018」が開催された。昨年に引き続き2回目の開催で、ピコ太郎や misono などのパフォーマンスのほか、人気コスプレイヤー、日本食の屋台なども登場し、多くの日本好きのマレーシア人で賑わった。

